

薬物依存者らの

早期回復を願う

◇昨年の暮れ、山梨ダルクを支援する会の第一回薬物依存症セミナーが開かれ、聞きに出掛けた。セミナーでは四人の当事者の体験発表があり、初めて聞く体験談に多くの人たちが耳を傾けた。体験談を発表した四人の当事者に共通していたのは、大麻から使用したことだった。このセミナーのサブタイトルが「私が大麻にハマった理由（わけ）」といい、若者たちが興味本位で簡単に手を出すのが大麻だということがよく分かる。

◇当事者の中には大麻から

覚せい剤にエスカレートし、罪を犯した人もいた。大麻は以前から幻覚症状の後遺症はないとされていたが、今では常習性が指摘され危険な覚せい剤などにのめり込む恐れがあるという。大麻といえども甘く見てはいけないし、絶対に手を出してはいけないことを実感する。

◇このダルクという名前には、アルコール依存を含めた薬物で生活に破綻（はたん）を来した人たちのリハビリ施設のこと。山梨ダルクでも一週間のスケジュールを組み、メンバーが日々のリハビリに取り組んでいる。薬物で心が傷ついた人たちには、毎日のミーティングは欠かせられない

↑平成二十一年
一月十五日（木）
山梨日日新聞
読者投稿欄より

い。またスポーツなどを通しての、体力づくりも行われている。そのほかにも社会奉仕活動や、グループ活動にも積極的に参加している。日々の活動を通し、大人としての心が養われていけば必ず社会復帰も可能はず。山梨ダルクの人たちが一日も早く回復することを願ってやまない。がんばれ山梨ダルクの人たち。